



学校だより

みどりの

- 考え伝え合う子
- 心豊かな子
- 元気な子
- やりぬく子

令和3年5月1日

今日を大切に

校長 遠藤 昌司

過ごしやすい季節となってきました。登校する子ども達の中にも半袖姿を見かけるようになりまし。この時期は、季節を逆戻りするような肌寒い日や、反対に夏を思わせるような暑さを感じる日もあるかと思しますので、体調管理には留意していきたいものです。

子ども達は担任のもと、順調に新しい学年のスタートをきっているようです。休み時間になると元気に校庭を駆け回っていますが、勢いが余ってか廊下を走る様子もあるので指導しているところ。学年初めは、新しい学年・学級で過ごす自分の環境を整えていく時期であり、時には友達との行き違いなどもあるでしょうが、温かい目で支えていただければと思います。ご心配な点は遠慮なく担任にお申し出ください。

1年生も入学して一か月がたちました。4月の終わりには児童会行事「ようこそ1年生」があり、テレビ放送を通してですが、改めて全校児童へのお披露目も終わりました。その1年生は、今、学校に慣れるために一番苦労しているのかもしれませんが。4月下旬からは給食が始まっています。自分たちで食事の準備をする大変さに加え、新型コロナウイルス感染予防のためにパーテーションを設置することなども加わり、毎日大変です。そんな時に手を貸してくれているのが6年生です。今年度はお手伝いの人数も制限されていますが、少数精鋭のお兄さん、お姉さんが、食器の片づけや牛乳パックの処理の仕方を優しく教えてくれます。

登校班の班長としても、主に活躍してくれているのが6年生です。1年生がいる班は特に気を付けて、後ろを振り返り振り返り、歩く速さも調整しています。気を配りながらゆっくりと歩くその姿に感心するとともに、頼もしくも感じます。

6年生は、この先、社会科で徳川家康を学習しますが、その10男に徳川頼宣という大名がいました。紀州藩（今の和歌山県ほか）祖で、有名な徳川吉宗のお祖父さんにあたる人です。この人にはこんなエピソードがあったそうです。時は戦国末期、大阪夏の陣。先陣を申し出る頼宣は、今の中学生くらいでした。まだ戦（いくさ）に慣れていないことを心配した家臣が「若君にはこれからも機会がいくらでもあります」となだめたところ、「私の14歳は二度とない！」と悔しがったそうで、その気概に家康は大いに感心したそうです。

新型コロナウイルスの感染が収まらない社会情勢の中、学校生活においても様々な制約がありますが、そのような状況においても、一度しかないそれぞれの6歳から12歳である今を、大事にしてほしいと思います。